ちょっと大げさかなあ

雨が強く眠れないまま、いろいろ、頭に昔のことが浮かんでくる。
寒い夜、一人で寝るのは寒いので、おばあちゃんを、
真ん中にして、右に京太で左に僕でよく寝た。
おばあちゃんが京太の方ばかり向くので
僕はよく不満を示した。

小学校一年になり、一人で寝させられた。
大徳寺に引っ越しして、家で、たこ焼きとお好み焼きを、
おばあちゃんとお母ちゃんがやりだした。
それで、親類のふうちゃんが住み込みで手伝いに来た。
夜は、僕らの部屋でふうちゃんも寝た。

夜、寒いので、ふうちゃんのふとんに
僕は、よく、もぐりこんで寝た。
ふうちゃんに甘えるように、抱きついて寝ていた。

「おばあちゃんより、ふうちゃんの方がええよ」と
おばあちゃんに抱きついて寝てる京太によく言った。

今、思い出すと、よく平気で、まあ、
ふうちゃんと抱きついて寝てられたなあ。
ふうちゃんは中卒だから、まだ十六七だったはず。

ふうちゃんはお店の看板娘で、お店もよく繁盛して、
お父ちゃんも仕事が忙しく、あの頃は良かった。

雨の音が小さくなって行ったのか、僕の気が遠くなったのか、
いつの間にか、うとうとと、僕は寝てしまった。

萩原良昭